



小中一貫教育研究会の提言 その2

前回に引き続き「東伊豆町小中一貫教育研究会」の研究でまとめられた提言の内容をご紹介します。提言1（前号）の続きとなります。

（研究報告書は、東伊豆町のホームページでご覧になることができます。）

提言 1

東伊豆町のこれからの教育の方向は、小中一貫教育を推進することが望ましい。

地域と一体となった学校づくりを明確に

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を打ち出し、学校は、地域の人たちと一緒にあって児童生徒の資質・能力を育成するよう求めている。地域から学ぶことを通して、幅広い課題に対応できる資質・能力を育成することが教育の重点とされた。

「東伊豆町のよさを理解し、郷土への愛着を持ち続ける子」を重視し、教育活動や学校運営への地域の参画を通して、その実現を目指す地域とともにある学校づくりを進めたい。そのためには、小・中学校を一体的に組織し、地域に一つの学校として地域と強く結びつく小中一貫の学校を整備することが望ましい。そして、地域の幅広い世代が、学校を交流拠点とした学びの場に参加し、子どもたちの教育を支援するとともに、大人もともに学ぶ新しい教育と町づくりを進めたい。



年齢幅を広げた環境で社会性を育む

小学校1年生から中学校3年生までが日常的に交流することが容易となる小中一貫教育は、幅広い年齢層の児童生徒が学習や行事等を通して関わり合いを深めることができ、「進んで人と関わり、人を愛する心を持ち、自他ともに大切にできる子」の育成が期待できる。

また、年齢差を生かした交流により、個々の多様性を認め合う意識の高まりや、リーダーシップの育成、コミュニケーション力、社会性の向上、自己肯定感の醸成が期待できることから、児童生徒数の減少している東伊豆町では、小中一貫教育を推進し、新たな学校環境においてコミュニケーション力・社会性を育むことが望ましいと考える。



★ご質問・ご意見は、東伊豆町ホームページの【お問い合わせ】か
東伊豆町教育委員会【電話】0557-95-6207 【〒】413-0411 東伊豆町稲取3354
【メール】kyouiku@town.higashiizu.lg.jp お願いします。